

喜界島におけるオニカッコウの夏期の観察記録

岡部海都¹・鮫島正道²¹ 〒 813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1 一般財団法人九州環境管理協会環境部² 〒 890-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-12-42 第一幼児教育短期大学生物研究室

■ はじめに

オニカッコウ *Eudynamys scolopacea* は、カッコウ目カッコウ科に属するカッコウ類である。インドからフィリピンにかけての東南アジアに広く分布しており、多くの地域では留鳥であるが、中国南部では夏鳥として渡来する (del Hoyo et al., 1997)。国内では迷鳥として 1970 年に西表島で確認された (黒田, 1971)。この記録は鳴き声のみの記録で、録音音源などの客観的な証拠がなかったことから参考記録とされた。2005 年以降沖縄県与那国島や愛知県岡崎市などで記録されたことから、日本鳥類目録改訂第 7 版に記載され、日本産鳥類として認められた (日本鳥学会, 2012)。鹿児島県においては、2006 年 7 月に南さつま市金峰町において雄が確認されている (小園・所崎, 2007) ほか、2015 年 5 月に奄美大島で鳴き声が確認されている (浜地ほか, 2017)。沖縄県宮古島では繁殖の可能性が示唆されている (浜地ほか, 2017)。また、喜界島では 2019 年 5 月に湾頭原展望所付近でオニカッコウの雄が観察・撮影されている (奄美新聞社, 2019 年 5 月 15 日)。

筆者らは、2019 年 6-7 月にかけて、喜界島において複数のオニカッコウを観察し、撮影及び録音した。繁殖期におけるオニカッコウのつがいと

思われる記録は沖縄県に続くものであり、本種の分布拡大を示す重要な観察記録と考えられることから、ここに報告する。

■ 確認位置と方法

確認位置 確認位置は大島郡喜界町の城久から中西公園にかけての山林である。

方法 本種は喜界島農業水利事業環境配慮計画策定の一環として実施された生物調査の際に確認された。本調査は 6 月から 9 月にかけて月 1 回 (4 日程度)、島内全域の山林をランダムに踏査した。サウンドスペクトログラムは、デジタル一眼レフカメラで撮影した動画から音声を抽出し、音声解析フリーソフト Sonic Visualiser version 4.0.1 を用いて画像化した。

■ 観察状況

6 月 25 日 中西公園から花良治に向かう道路沿いの山林 (北緯 28°17'40.67", 東経 129°58'15.82") にて「ファッフアッフヨフヨフヨ」という大きな鳴き声 (図 3) と飛び去る後ろ姿を観察した。種の同定はできなかったが、鳴き声がオニカッコウの警戒声に似ていること、飛び去る後ろ姿がキジバト大で真っ黒に見えたこと、5 月に同所の上方面にあたる湾頭原展望所付近でオニカッコウの雄が観察・撮影されていることなどからオニカッコウの可能性があらわと思われた。その後調査期間中に数回同所を訪れたが、同様の鳴き声は確認できなかった。

7 月 21 日 城久から湾頭原へ向かう道路沿いの広葉樹林 (北緯 28°18'27.94", 東経 129°58'19.53") でオニカッコウの囀りと思われる鳴き声を確認した。一般的な囀りよりも不連続で、数回

Okabe, K. and M. Sameshima. 2020. Observation of *Eudynamys scolopacea* during summer season in Kikai Island, Amami Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 515-518.

✉ KO: Kyushu Environmental Evaluation Association, 1-10-1 Matsukadai, Higashi-ku, Fukuoka 813-0004, Japan (e-mail: okabe@keea.or.jp).

Published online: 4 April 2020

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-091.pdf

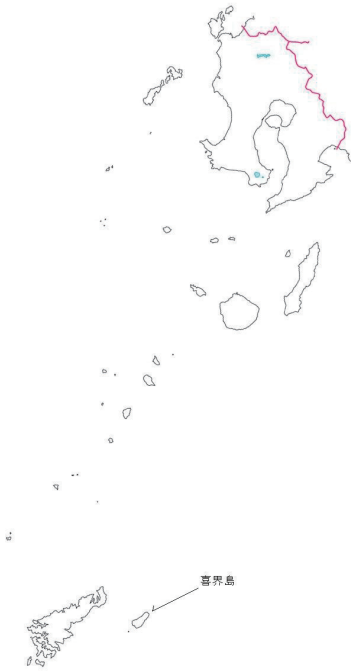


図1. 喜界島の位置.



図2. オニカッコウ確認位置.

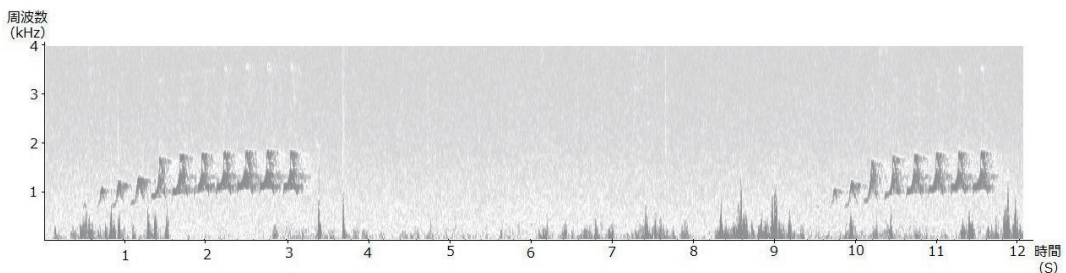


図3. オニカッコウの地鳴きと思われる声のサウンドスペクトログラム (2019年6月25日録音).

で鳴き止んだため、録音はできなかった。

7月23日 21日の観察場所から北西側約300m付近(北緯 $28^{\circ}18'35.46''$, 東経 $129^{\circ}58'14.32''$)の広葉樹林で「ウォポポポ」という低い聞き慣れない声を確認(図4)した。声質からオニカッコウの可能性があると判断したが、姿は確認できなかった。

7月24日 21日と同じ場所において早朝に「コウエル、コウエル・・・」というオニカッコウの特徴的な囀りを確認した(図5)。同日午後、同所付近で再びオニカッコウの囀りを確認し、初めて鳴いている雄の姿を確認した。頭部は葉に隠れて見えず、青色光沢のある黒い腹部と尾羽が見えていたが、飛び立つ際に黄白色の嘴と赤い虹彩が確認できた。雄は林内に入って見失ったが、やや離れた場所で雌が道路上空を通過するのを観察した。この個体は7月23日に聞いた正体不明の声で鳴いており、この声がおニカッコウ雌の声であることを確認した。

雌を追うように雄も飛来し、雌が鳴いている林縁の木に入るのを確認した。林縁を探索したところ、雌を発見し撮影した。雌は暗褐色の羽色に頭部や背面は白斑がちりばめられ、尾羽には横帯がみられた。虹彩がはっきりと赤いことから、成鳥であると判断された。雌は数分で飛び立ち、同時に近くに止まっていたと思われる雄が後を追うように続いて飛び去った。後日雌の写っている画像の中に、同じ木に雄が写り込んでいるのを確認した(図6)。

■ 考察

オニカッコウを観察した7月は、渡り時期からは大きく離れており、繁殖期に当たる。5月に

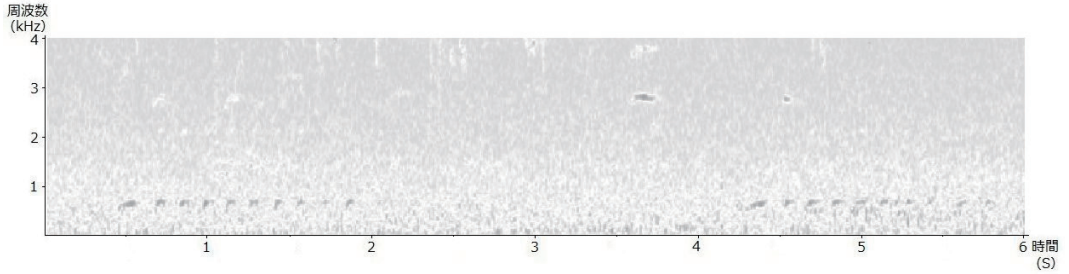


図4. オニカッコウ雌の鳴き声のサウンドスペクトログラム (2019年7月23日録音).

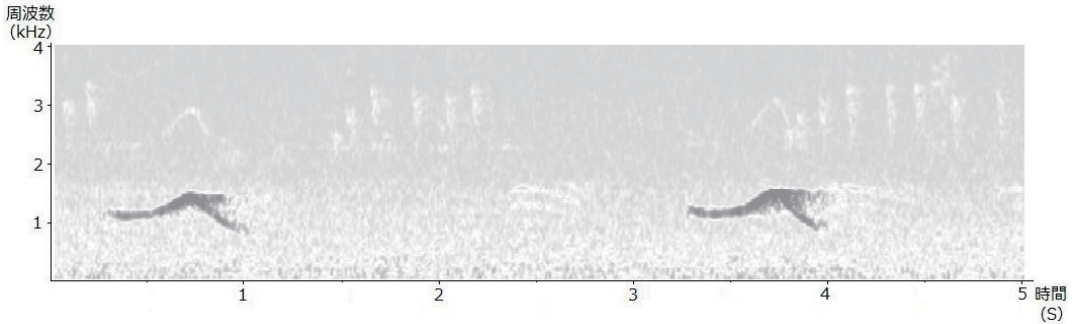


図5. オニカッコウ雄の囀りのサウンドスペクトログラム (2019年7月24日録音).



図6. オニカッコウの雌雄 (2019年7月24日撮影).

新聞報道された個体は7月の観察地点から約900 m離れた場所で観察されており、その頃から同地域に滞在していた可能性がある。7月には雌雄が同時に確認され、雄が雌を追うような様子が観察

された。雄が囀ったあとに雌が出現し、雌も鳴いていたこと、同じ木にとまったことなどから、この雌雄はつがいであった可能性もある。本種は他のカッコウ目の鳥と同じく托卵性であり、ハシブ

トガラス, イエガラス, ハッカチョウなどに托卵することが知られている。宮古島での報告では, ハシブトガラスまたはリュウキュウヒヨドリに対する托卵が示唆されている。

ハシブトガラスは喜界島にも多く生息しており, オニカッコウを確認した道路沿いでも, 付近で営巣していると思われるハシブトガラスに観察者が激しく警戒されることがあった。ヒナや巣立ち後の幼鳥は確認できなかったが, ハシブトガラスを托卵相手として繁殖する可能性があると考えられる。南西諸島では近年オニカッコウの観察記録が増加傾向にあり, 分布拡大の初期段階であることが指摘されている(浜地ほか, 2017)。今回

の夏季におけるオニカッコウの雌雄の観察は, 本種の分布拡大を示す記録として重要である。

■ 引用文献

- del Hoyo, J., Elliott, A. and Sargatal, J. (1997) Handbook of the birds of the world. Vol. 4. Lynx Edicions, Barcelona.
- 黒田長久 (1971) 琉球の鳥類調査から新記録の鳥オニカッコウ (西表) とカラムクドリ (石垣), 附, ヒメズラシギ (石垣). 野鳥 36: 25-27.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 東京.
- 小園卓馬・所崎 聡 (2007) 九州におけるオニカッコウの観察初記録. Strix 25: 201-204.
- 浜地 歩・植村慎吾・仲地邦博・高木晶興 (2017) 宮古諸島におけるカッコウ科鳥類2種の観察記録. Bird Research 13: 27-33.